

(別紙)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業
(施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 長野市

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンシナノホシ
法人名	社会福祉法人信濃の星
フリガナ	ノンビリホ〜ム サクラガオカ
事業所名	のんびりほ〜む さくらがおか
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
グループホーム	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
3.6 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☒ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☐ 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数): 移乗サポートロボット Hug L1-01(1台)

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	1 人	125 件	1,500 件	7 分	175 人時間	175 時間
	2 排泄介助・支援	1 人	465 件	5,580 件	10 分	930 人時間	930 時間
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	
			590 件	7,080 件	17 分	1,105 人時間	1,105 時間

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

1 移動・移乗・体位変換	移乗が必要な利用者数1名	平日20日×3.5回	土日祝日10日×5.5回	1名×{(20日×3. 5回)+(10日×5.5回)} = 1×(70+55) = 125
2 排泄介助・支援	排泄介助が必要な利用者数1名	平日20日×14. 5回	土日祝日10日×17. 5回	1名×{(20×14. 5)+(10×17. 5)} = 1×(290+175) = 465

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

現場職員により計測

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	1 人	125 件	1,500 件	5 分	125 人時間	125 時間
	2 排泄介助・支援	1 人	480 件	5,760 件	7 分	672 人時間	672 時間
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	
			605 件	7,260 件	12 分	797 人時間	797 時間

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

1 移動・移乗・体位変換				
移乗が必要な利用者数1名	平日20日×3.5回	土日祝日10日×5.5回	$1名 \times \{(20日 \times 3.5回) + (10日 \times 5.5回)\}$	$= 1 \times (70 + 55) = 125$
2 排泄介助・支援				
排泄介助が必要な利用者数1名	平日20日×15回	土日祝日10日×18回	$1名 \times \{(20 \times 15) + (10 \times 18)\}$	$= 1 \times (300 + 180) = 480$

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

現場職員により計測

年間業務時間数想定削減率(%)

27.9%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

・Hugを使用する事で、業務時間短縮に繋がっている。移乗、移動に掛かる時間が大幅に短くなった。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

・職員の負担が軽減され、腰痛に悩む事がなくなった。特に、土日の在所時にトイレ介助が続くと腰痛の訴えが多く、腰痛ベルトの着用や整骨院への受診をする職員もいた。
・職員の腰痛を心配して、利用者様もトイレを頼みにくい場合もあったようで、ロボット機器を導入してから、「頼みやすいし。移動も安定しており安心。脚折れの心配もないし自分でも楽」と喜ばれている。
・ロボット機器導入前は利用者様を抱えて移乗しており、転倒等のリスクもあり職員も不安があった。ロボット導入後は、お互いの怪我へのリスクも軽減され、職員の年齢も問わず仕事が出来ている。
・起床、就寝介助、トイレ介助に掛かっていた時間が大幅に短縮され、他の業務にもゆとりを持って対応が出来ている。

(5)今後の課題

・緊急時にロボット機器が使用できない状況の際、直ぐに対応可能か心配はある。

(6)気づき等について

・充電が必要になると音で知らせてくれるが、その後も使用できるため受電に気が付かない場合もある。もしランプが点灯するか、充電量が%で示すような、眼に映りやすいシステムに改善できたら有難いです。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	有
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	30,000円
職員の賃上げ等への充当	有
その他職場環境の改善への充当(※1)	無
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	無

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。